

I 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

この部分は著作権の都合により公表できません

この部分は著作権の都合により公表できません

注

- 1) 「持続可能な開発目標 (SDGs)」とは、平成 27 (2015) 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載されている 2030 年を期限とする開発目標のこと。
- 2) OECD は「PISA2015 年調査国際結果報告書」において、ウェルビーイング (Well-being) を「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な、心理的、認知的、社会的、身体的動き (functioning) と潜在能力 (capabilities) である」と定義している。

【出典】文部科学省 (2021) 『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (答申)』 (一部改編)

https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf

問 現代社会は、これまでにないスピードで変化している。また、学校のあり方も大きく問われている。こうした状況の中で、下線部において「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成すること」が、これからの学校教育において求められていると述べられている。子どもたちにこのような力を育てるために、教育現場において何が大切であると考えるか、あなたの考えを 400 字以内で述べなさい。

Ⅱ 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

この部分は著作権の都合により公表できません

この部分は著作権の都合により公表できません

出典：木村育恵「学校が不平等を再生産しないために 教員世界と隠れたカリキュラム」
『世界』 第 985 号 2024 年 9 月
(一部改編)

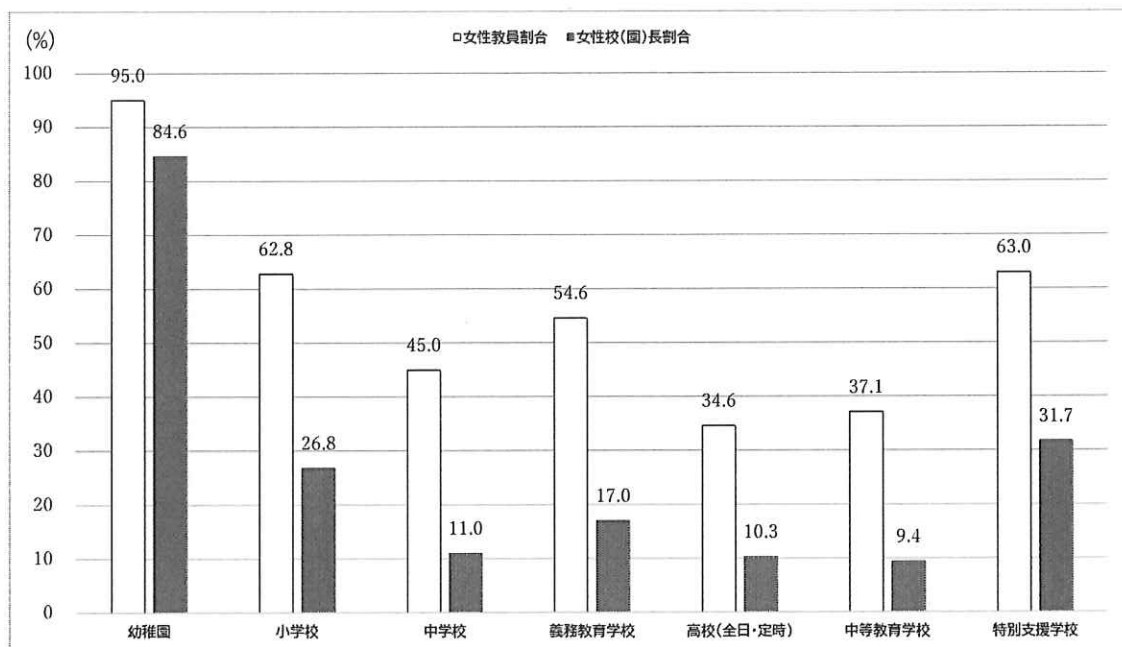


図 公立学校女性教員及び女性校(園)長の割合(令和 5 年度)

* 文部科学省「令和 5 年度学校基本調査」より作図

問 問題文は、教員世界におけるジェンダーについて論じています。教員世界におけるジェンダー・ギャップを改善する上で何が大切と考えるか。本文を参考にして、あなたの考えを 400 字以内で述べなさい。

2026 年度宮城学院女子大学学校推薦型選抜
教育学部教育学科 小論文 解答例 出題意図

I

（記述例）今の社会は AI や ICT の発達によって大きく変わっており、これからは正解のない問題に向き合い、自分の考えを持つ力が求められていると思う。そのため、学校では知識を教えるだけでなく、自分で考えたり、人と話し合ったりする授業を増やすことが大切だ。たとえば、グループで意見を出し合う活動を通して、他の考え方を知ったり、自分の意見をまとめたりする力が身につくと思う。また、先生が一方的に話すのではなく、子どもたちの発言を引き出しながら進める授業も効果的だと思う。これからの時代を生きる子どもたちにとって、自信を持って自分の意見を伝える力や、他の人と協力して問題を解決する力はとても大切だと感じる。こうした力を育てる教育が広がってほしいと思う。さらに、日々変化する社会のなかで、これらの教育が広がるためには、先生が子どもたちから学ぶ姿勢を持つことによって、子どもと先生が共に成長していくことが大切だと思う。

(393 文字)

【出題意図】

この問題は、社会が急速に変化するなかで学校教育が果たすべき役割を、教育学部を志望する受験生の視点で考えさせることを目的としている。単に知識を教えるだけでなく、これからの時代を生きる子どもたちに必要な「主体的に考える力」や「人と協力する力」などをどう育むかという教育の本質を捉える思考力と表現力を測る。

II

（記述例）教員分野においては、男女平等は進んでいると考えられている。しかしデータによれば、管理職登用において明らかな差異がある。また校種、教科や学年配置などにおいてもジェンダー・ギャップは存在する。これらは是正されるべきである。なぜなら、男女平等を掲げる日本国憲法や男女雇用機会均等法などの精神は、教員世界においても尊重されなければならないからである。

教員世界におけるジェンダー・ギャップを改善するための方策として、2つの取り組みを提案したい。第1に、女性教員が教職と家庭を両立できるように職場の慣行を改善することである。第2に、女性のライフステージを踏まえ、積極的に女性を管理職に登用する制度を設けることである。

教員世界には、多くの暗黙の慣行がある。それらを改善することは容易なことではない。しかし、教員世界から無批判の習慣を取り除いていくことは、誰もが働きやすい世界を築き上げる第一歩となるであろう。

(397 字)

【出題意図】

公共科や家庭科などで学習したジェンダー概念の活用能力を問う問題。

教員世界におけるジェンダー・ギャップを理解し、その改善策を考える。

文章やデータの読解力（知識）を踏まえ、課題解決能力を問う。